



生物多様性をまもる市民の力と希望

富樫 均 (自然環境部)

当研究所施設公開日の8月1日、国際生物多様性年の記念企画として「信州の環境保全に取り組む市民大集合！～足元から考える生物多様性の保全～」が開催されました。当日県内各地から約50名が集まり、以下の内容で活動報告と活発な意見交換が行われました。

- ＜主催者挨拶＞ 荒井高樹（環境保全研究所長）
塚田純一（長野市環境政策課長）
- 講演「にぎわい・つながる 信州と地球の生きものたち」
須賀 丈 研究員
 - 県内各地の4つの市民団体による活動報告
 - ひと・むし・たんぼの会（伊那市） 滝澤 郁雄さん
 - 軽井沢サクラソウ会議（軽井沢町） 今城 治子さん
高尾 幸雄さん
 - 森倶楽部 21（松本市） 永田千恵子さん
 - 戸隠を知る会（長野市） 国田 裕子さん
 - 意見交換会（コーディネーター：富樫 均 主任研究員）
 - 日頃の活動を紹介するポスター展示と解説（各団体）
（上記報告をいただいた4団体の他に、信越トレイルクラブ、やまぼうし自然学校、染屋の森の会、野尻湖水草復元研究会、信州ワシタカ類渡り調査研究グループ、信州ツキノワグマ研究会、長野市環境部、環境保全研究所友の会（順不同）が出席）

4つの団体による活動報告では、発表順に「有機農法の米作りを通しての虫や生きものたちの観察」、「町内に自生するサクラソウをシンボルとした生態系保全活動」、「チョウを指標にした里山の手入れと保全活動」、「観光地利用と高原の自然環境のモニタリング調査」が紹介されました。どの活動も拠点とする地域や立地が異なり、取り組み内容には大きな違いがありました。ポスター展示による発表も、それぞれが個性的な内容でとても興味深いものでした。



市民大集合での意見交換会の様子

意見交換の中では、調査法についての質問や調査活動が逆に希少な生物等に悪影響を与えることがないかという質疑応答。生態系基盤のひとつである湧水の調査例の紹介。あるいは「生物多様性」という言葉が難しく一般に浸透しにくいので、わかりやすいキャッチフレーズをつくるべきだという意見。マスメディアの力を借りること、学校教育現場への情報発信、そして情報交換ができるゆるやかなネットワークが必要だという提案。さらには、行政と市民活動団体との緊張感をもった協力関係が大事だという、経験を踏まえた指摘もありました。



ポスター会場での発表のひとコマ

生物多様性の保全には、さまざまな切り口が想定されます。それは、この問題が生物だけのことではなく、生物をとりまく風土や文化や社会と深く関連していることの表れです。今回の「市民大集合！」企画の一番の収穫は、各地で行われている多彩な活動の意味を「生物多様性の保全」という視点で再認識し、お互いが顔を合わせて情報を共有できた点にあったと思います。市民による地道な活動は多様で具体性に富み、問題解決のためのヒントや希望をもたらしてくれます。その貴重な経験や問題意識を、さらに多くの人々が共有すれば保全のための大きな力になるはず。環境保全研究所には情報共有のための体制づくりを担ってほしい」という、期待をこめた宿題もいただきました。

最後に、発表していただいた団体と参加していただいた多くの皆様に、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。